

- ◆日 時 2024年4月7日(日)
- ◆散策場所 瑞穂町
- ◆ポイント カタクリ等、春の野草や木の花・実を観察する。
- ◆散策ルート 圓福寺→残堀川左岸→狭山池公園→さやま花多来里の郷→耕心館の野草園→狭山丘陵北麓往復→箱根ヶ崎3丁目バス停
- ◆参加者 10名(梅田、越前、太田、大村、岡、斉藤、桜井、宮野、山下、中部)

この日は晴れて気温が高い日になった。歩数1万1000歩余り。ソメイヨシノは満開となり、ショカツサイが咲き乱れ、カタクリは北西斜面が見頃であった。このコースは昨年も歩いているため、以下のような内容で実施することにした。

- ①草花のスケッチ3種類 花多来里の里で1枚 耕心館で2枚
- ②狭山池には下見時、グミの実がなっていた。そこで牧野図鑑にあるグミについて、葉、花の時期、しべ、実等の特徴を順に整理し書き出した。それを参加者全員に配布する。読みながら実際グミの木を見て、木の状態を読み取っていく。一人一人がグミの名前を判定していくという作業を通して、グミの木の名前を探り出すことにした。
- ③耕心館では前もって、春に咲く野草の花の名前(パンフレットから)を全部書き出し、前もって知らせておいた。書き出した名前のどれが咲いているかを、実際に見ながら咲いているものをチェックすることにした。

以上の3つに共通することは実物から、観察力を考えることである。一つ目はスケッチを通して実物を詳しく見る。二つ目は資料を前もって提供し、あてはまる野草を探し出すこと。耕心館の野草園では名前を提供している。三つめは図鑑で説明してあることを整理し、比較しやすくした資料にして当日配布し、説明を辿り実際のものを判定する。こんな方法で進めた、

別途、ここ瑞穂は狭山丘陵という特異な丘陵の西のはずれであり。立川断層が走り、残堀川はその断層に沿って流れていることなどの説明を行った。様々事前の準備は出来ていたと思う。

これらの活動は、どのように受け止められたかは参加者の判断となるが、自分の目で見て、確かめて、確かな情報になるように務めたつもりである。

狭山池の一角にカツラの木がある。カツラは川沿いの湿った場所がお好みである。この狭山池のほとりにあるのは理がある。昨年カツラの木を見たので、改めて今回はカツラの花を探し出した。雌雄異株のカツラ、ここの木は雌花の木であった。花は過ぎており、実が大きくなり始めていた。花は葉が出る前と書いてあった。顎無し、花びら無しで、細長く赤い雌蕊が3本ほどである。しばみかけた雌花を見た。雄花の木は見当たらなかったが、雄花の葯も赤いそうだ。

花多来里の里では、越前代表がカタクリは発芽から花が咲くまで8年もかかること、寿命が40年を超えることもあるなど、カタクリの一生について解説やカタクリの様々な表情について話しかけた。花の表情というものは、花の固有さであるが、それが花の美しさとなって、人に思わせる。理は単純だが、そこに不思議さがあることを教えている。

耕心館では1時間、資料と実際に咲いている野草を探し出しチェックしていく。私の記録では、提供された資料の1/3ほどが記録された。チェックした花々はじっくりと図鑑でもう一度照らし合わせる作業がある。

ここで大半の観察活動は終了することになる。6名が帰り、4名で狭山丘陵の北側を歩き、ニワトコやアオキの花、見事に咲いたソメイヨシノの大木、また陽光ザクラ1本を畑に見る。ハナカイドウの花咲く場所で一休みし、同じ道をたどり戻った。モミジイチゴの花やクサイチゴの花も見られた。狭山丘陵駐車場のそばに土筆がたくさん生えており、摘み取って帰った人も。丘陵北側に掘られた弾薬庫などを見ながら、戦争の姿がどのように伝わるのか考えた。大切な弾薬庫跡である。3時のバスは5分ほど遅れた。その間に階段の隙間から、キュウリグサが窮屈そうに顔を出していた。

参加の皆様 ありがとうございました。

報告者 中部



集合写真 瑞穂町 郷土資料館 けやき館

イカリソウ